

令和 3 年度に研究所が実施する研究課題等に係る意見について

機関名		担当者名	
電話番号		e-mail	

本研究所の研究課題の研究計画・内容の改善、研究課題の精選のために、下記について御意見をいただきたく存じます。

1. 令和 3 年度から新たに行う研究課題及びその概要についての御意見

資料 1 「令和 3 年度研究課題」にお示ししている新規の研究課題について、どのような研究成果を望まれるかについて御意見がございましたらお聞かせください。

(該当する研究課題の□にチェックを入れ、研究概要下欄の枠内に御意見をお書きください)

☐ 特になし

☐ 研究課題名：学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に関する研究

研究期間	2 年 (令和 3 年度 ~ 令和 4 年度)
概要 本研究では、特別支援教育において現行の学習指導要領に基づいて編成・実施される教育課程のもとで、育成を目指す資質・能力の指導の状況や、学びに必要な一人一人への支援状況などを把握することを目的とした研究を行う。この目的と関連して、調査結果から得られる知見を補完する情報が得られるように、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、通常の学級のそれぞれが、新しい学習指導要領に基づいて、教育課程の編成・実施をどのように進めるか、その具体的な取組を明らかにするための事例研究を行う。これらの成果については、今後の国の政策立案や地域における取組の推進に役立つ資料として提供することを目指す。	

--

- **研究課題名：**障害のある子どもの就学先決定の手続きに関する研究

研究期間	2 年（令和 3 年度～令和 4 年度）
概要	障害のある子どもや保護者にとって就学は不安や悩みが大きいと言われている。子どもや保護者が安心して就学を迎えられるよう、就学先決定の手続きは常に見直し充実させていく必要がある。 平成 25 年 9 月に政令改正がなされ就学先決定の手続きが変更された。これ以降、就学先決定の手続きに関する現状や課題等について全国的に明らかにした研究は見られない。そこで、本研究では、まず、全国の都道府県及び市区町村教育委員会に質問紙調査を実施し、就学先決定の手続き等に関する現状と課題を明らかにする。また、質問紙調査結果等から特色ある取組をしている教育委員会に訪問調査を行い、就学先決定の手続きに関する好事例を収集し整理する。これらの調査結果を全体的に考察し、インクルーシブ教育システムにおける就学先決定の手続きの在り方について、国及び地方の教育行政に対し情報提供を行うことを目的とする。 各調査結果は、集計後速やかに公表するとともに、研究成果報告書及びリーフレットの公表、日本特殊教育学会等で学会発表により、研究成果を国及び地方の教育行政担当者等、就学先決定の手続きの関係者に活用いただけるようにする。それにより、子どもや保護者が安心して就学を迎えられるよう就学先決定の手続きの改善充実に寄与したい。

- **研究課題名**：高等学校に焦点を当てた障害のある生徒の社会への円滑な移行に向けた進路指導と連携の進め方等に関する研究

研究期間： 3 年（令和 3 年度～令和 5 年度）

概要

高等学校卒業後の進路に関する支援について、新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（2020）の議論の整理では、進路先で困難さを抱える生徒がいることに触れつつ、学校段階から卒業後を見据えた指導・支援を行うことや、進路先へ情報の確実な引継ぎを行うこと、そのために関係機関や特別支援学校との連携を行うことの重要性が指摘されている。

本研究は、高等学校に焦点を当て、発達障害など障害のある生徒の学校から社会への円滑な移行を支える進路指導と、その過程の中で必要となる連携の進め方を明らかにすることを目的として、卒業後の進路先（企業、大学、福祉機関）や、連携先となる関係機関、特別支援学校を対象とした質問紙調査及びインタビュー調査を実施する。また、各調査で得られた知見を、学校現場で活用できる資料として取りまとめ、普及を図る。

- 研究課題名：I C T等を活用した障害のある児童生徒の指導・支援に関する研究

研究期間	2 年（令和 3 年度～令和 4 年度）
-------------	----------------------

概要

本研究では、GIGA スクール構想が実行され、一人一台 ICT 端末の整備が進む中で、障害のある児童生徒へのテクノロジーを活用した個別最適な学びの実現を目指し、まず、その学習の現状における課題の把握・分析を行う。そして、障害のある児童生徒のデジタル教科書、タブレット端末等 ICT の活用について、学校及び家庭それぞれにおける学習やそれらをつなぐ遠隔システムの運用の進め方や支援における留意点等について整理し、小中学校及び特別支援学校に対してそれらをまとめた資料を提供することを目的とする。

- **研究課題名：**通常の学級における多様な教育的ニーズのある児童生徒の教科指導上の配慮に関する研究

研究期間 2 年（令和 3 年度～令和 4 年度）

概要

本研究では、小学校、中学校及び高等学校等の通常の学級における教科指導において、多様な教育的ニーズに応じた個別最適な学びの実現をめざした教育の保障という観点から、授業における個に応じた対応、デジタル教科書やデジタル教材を含む教材教具の活用の仕方など教科指導上の配慮について検討することを目的とする。研究成果は学校現場で活用できる資料としてまとめ、普及を図る。指導上の配慮事項を検討する際は、困難さへの対応だけでなく、障害の特性を生かす視点も大切にしながら、学習上の困難さやつまずきに関する多様な教育的ニーズに焦点を当て研究に取り組むこととする。教科指導上の配慮については、障害の特性に応じた指導上の困難さの共通事項に焦点を当てまとめられているものが多いが、本研究では各教科における学習の特徴なども視野に入れ、本人のニーズに基づく学習の困難さやつまずきに対する配慮や対応について、その適切さの評価という視点からも、個別最適な学びの実現をめざした配慮事項を検討していく。

- **研究課題名**：知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究

研究期間： 2 年（令和 3 年度～令和 4 年度）

概要

特別支援学校を主な対象とし、知的障害のある児童生徒に対する各教科の指導及び各教科等を合わせた指導における、実態把握に基づいた年間指導計画や単元計画の立て方、学習の目標・内容・方法、適切な評価規準の設定を含めた学習状況の評価の方法について事例収集及び実践研究を行う。また、学習評価の方法に関する内容を中心に上げ、留意点を検討することで、知的障害のある児童生徒に対する各教科の指導及び各教科等を合わせた指導における学習評価の方法について事例をもとに示す。

2．研究所が実施する研究についての御意見

その他、研究所が実施する研究についての御意見がございましたら、お聞かせください。